

駅前利便性と滞在型コミュニティ形成機能と若者の定着

—会津若松駅前コミュニケーション施設“日新館”—

東海大学 政治経済学部政治学科 岡本ゼミナール（指導教員：岡本三彦）

代表者：松竹航希

参加者：内山舞凜・志澤陽斗・竹木哲平・中嶋優輝・檜原蓮琉

《目次》

梗概

第1章 会津若松市の主要産業と現状

1. 主要産業
2. 現状

第2章 課題解決案の提案

1. 解決案の提案
2. 解決案の根拠
 - 2-1. 設置場所の選定理由及びターゲット層について
 - 2-2. 施設の内容について
 - 2-3. 各施設の理由について
 - 2-4. 参考施設

第3章 提案する政策と「若者の定着」の結びつき

第4章 近隣施設の反発について

第5章 施設名「**日新館**」の由来と込めた思い

おわりに

参考文献

梗概

会津若松市は、稲作を中心に野菜や果樹などの栽培など広大で豊かな自然を生かした第一次産業、会津漆器や会津木綿などの伝統工芸や酒造業、半導体や世界シェア 7 割を誇る消化器内視鏡などの第二次産業、鶴ヶ城をはじめとした歴史ある街並みや、最近では ICT 関連企業などが活躍を見せる第三次産業と、各産業が躍動している魅力的な街である。それににもかかわらず、会津若松市の人口は、1995 年をピークに減少傾向が続いた。そのため「人口減少・地域活力の低下」という課題の解決を図り、「スマートシティ会津若松」や「地方創生」の実現に取り組んできた。この取り組みにより ICT 関連企業の機能移転の受け皿として整備された「スマートシティ AiCT」の発展やそれに伴う移住者の増加など、会津若松市の活力維持に向けた成果が創出された。そうした取り組みにもかかわらず出生数の減少や進学・就職に伴う若年世代の転出超過などによって人口減少が市の予想以上に急速に進行している。このままでは将来的に会津若松の豊かな農業や伝統文化の担い手不足や会津若松市内の人口減少によって、今ある会津若松の強み・魅力が低減してしまう可能性がある。

このような課題に対して本論文では、若者を中心に「住み続けたい」と思われる街づくりを主題とし、街の玄関口でもある会津若松駅と駅周辺をメインに、会津若松市〔まちづくり整備課〕の事業と絡めた政策、「会津若松駅前コミュニケーション施設日新館」の提案をする。第 1 章では、会津若松市の主要産業と産業・世代別人口から見る会津若松市の課題についてまとめた。第 2 章では、第 1 章を踏まえたうえで課題解決へのアプローチ方法とその根拠について、会津若松市の各データや類似事例を交えての考察をした。第 3 章では、本論文で提示する政策案と今回の「公共政策フォーラム 2024in 会津若松」で提示されたテーマである「地方都市における若者の定着～若者に選ばれるまちの実現に向けて～」¹との結びつきについての説明を行う。

第 1 章 会津若松市の主要産業と現状

1. 主要産業

会津若松市の産業はどれも魅力的である。

第一次産業は稲作を中心に幅広い農作物の栽培が盛んに行われている。稲作では「会津白虎米」や「特別栽培米会津産ミルキークイーン」などをはじめとした多くのブランド米が育てられている。また市内で収穫された米を原料に味噌や純米大吟醸なども製造されている。そのほかにも会津伝統野菜や会津地鶏肉などの生産も盛んである。

第二次産業は「会津漆器」や「会津木綿」などの伝統工芸品、「赤べこ」「起き上がり小法師」といった民芸品などの会津地域伝統の工芸品が有名である。また富士通をはじめとした大企業の半導体生産工場や、消化器内視鏡で世界シェア 7 割を誇る会津オリンパスの工場を有している²。これら会津若松市の製造業は、第二次産業をさらに細かく区別したとき最

¹ 会津若松市企画調整課「公共政策フォーラム 2024in 会津若松開催要領」

² 会津オリンパス会社情報サイト「世界に誇る技術力」

も生産額が大きい。これら製造業を中心に、会津若松市総生産の2割強を第二次産業が担っている³。

第三次産業の内容は多岐にわたる。その中で注目したいのは観光業だ。鶴ヶ城をはじめとした歴史・文化を感じることでできるエリア、自然を堪能できるエリア、温泉などのレジャーを満喫できるエリアなど、様々な目的に合った楽しみ方ができる。また先述した会津若松名産の食材を使ったグルメや、伝統工芸品・民芸品など、様々な産業が合わさって会津若松市の魅力を形成しているといえるだろう。

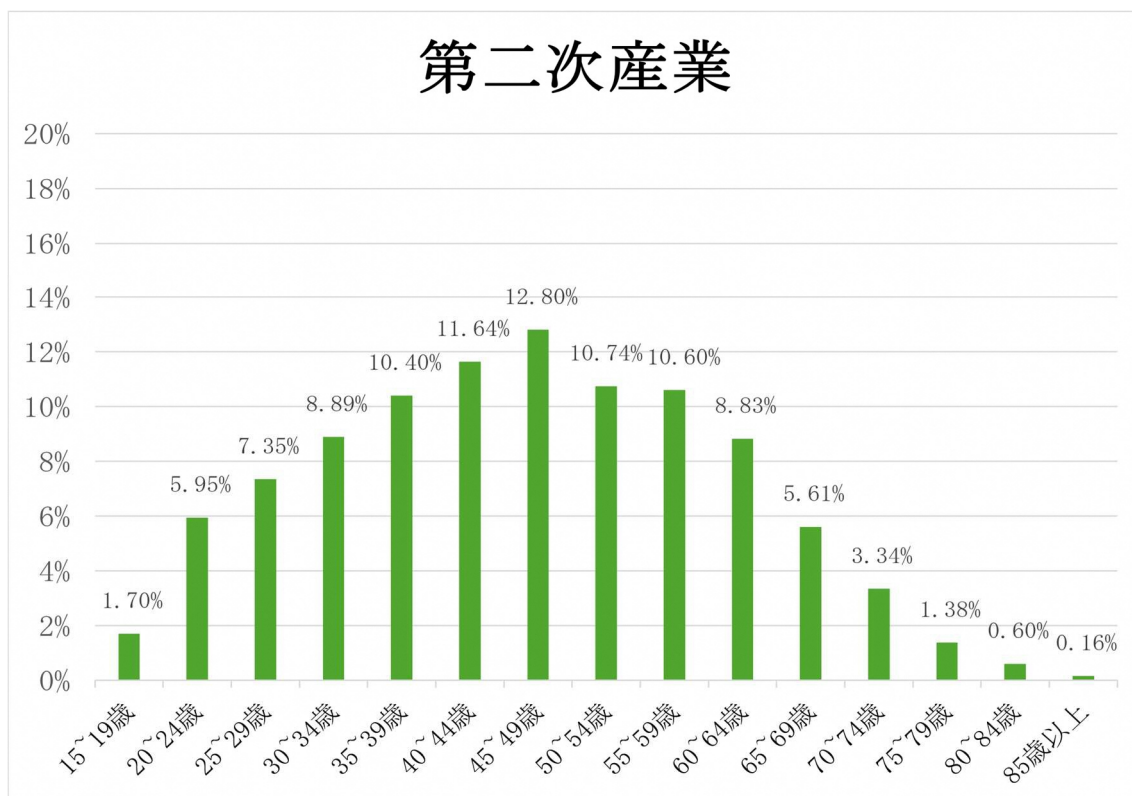
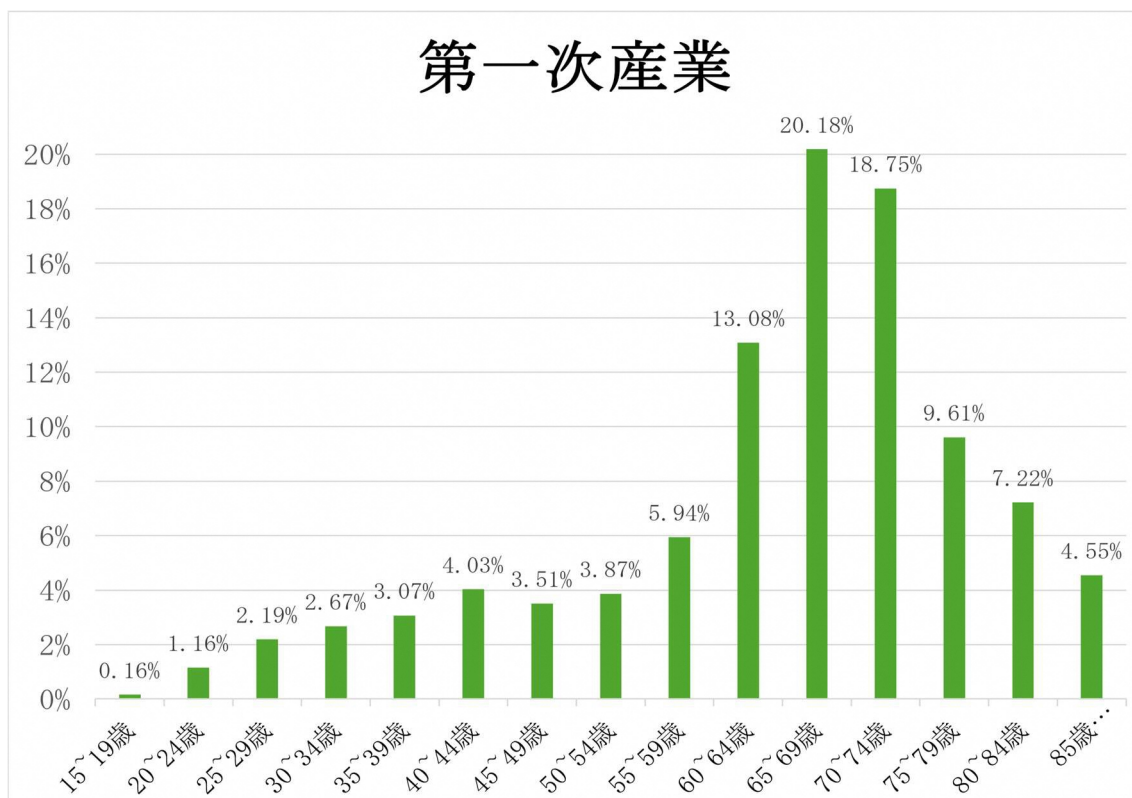
2. 現状

下記の図は会津若松市の産業別・年齢別の人口割合を表したものである。(図表1) これを見ると、第二次・第三次産業は30代後半から50代の割合が大きい。これは会津若松市が取り組んだ「スマートシティ会津若松」による企業誘致やICT関連施設の増設・強化を進めた結果、IT関連企業を中心に第二次・第三次産業が成長、それに伴う転入の増加などによって第二次・第三次産業に勤める人口が増加したことが要因と考えられる。これはICT政策実施前後の会津若松市への転入数の推移を表した(図表2)からもわかる。新型コロナウイルスの影響で転入数は減少しているものの、2021年以降大幅に増加している。一方で第一次産業を営む人口は60代後半から70代を中心に高齢者がその多くを占めている。そのため第一次産業の産業従事者・後継者不足により今後の第一次産業の維持・発展が困難になる可能性がある。会津若松市の産業別人口割合をみると、会津若松市の第一次産業従事者は福島市やいわき市、郡山市と比較して1~2%ほど高い。(図表3) しかしそんな第一次産業従事者は第二・第三次産業従事者よりも急速に減少している。(図表4) 第一次産業にはブランド米や会津の伝統野菜、酪農や豊かな自然を維持・形成する林業など、未来に繋いでいくべき産業があふれている。そのために私たちは現在会津若松市に住む若者を主なターゲットに、住み続けたいと思うような街づくりをし、第一次産業の担い手の増加と各産業に就く総人口の増加や転出人口の低減をし、会津若松市の多種多様な産業がそれぞれ発展することを目指し政策を提案する。

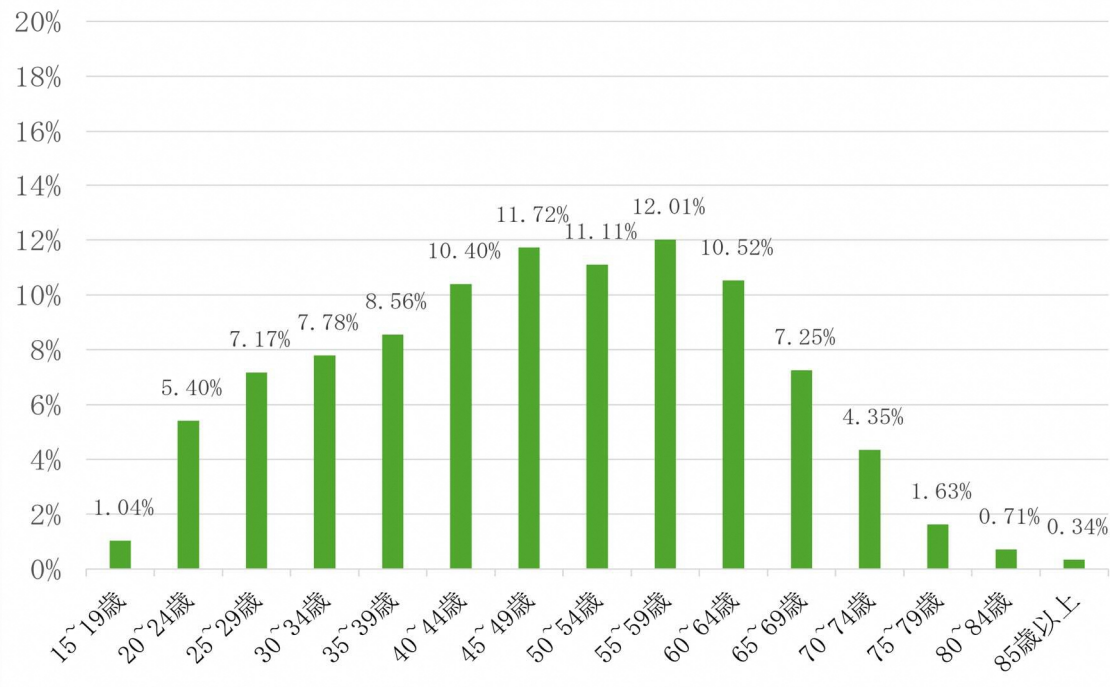
(<https://www.aizu.olympus.co.jp/business/technologies/>)

³ 会津若松市企画政策課情報統計課 「2021年度福島県市町村民経済計算 会津若松市の概要」

【図表 1 会津若松市の産業・年齢別人口】

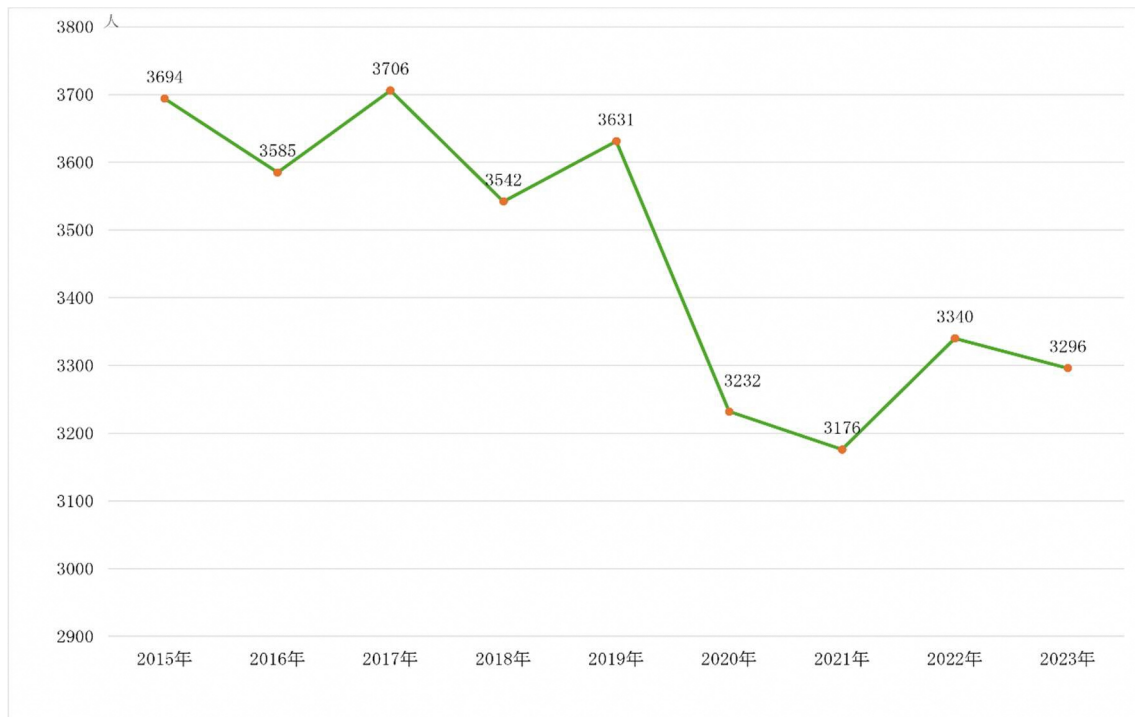


第三次産業



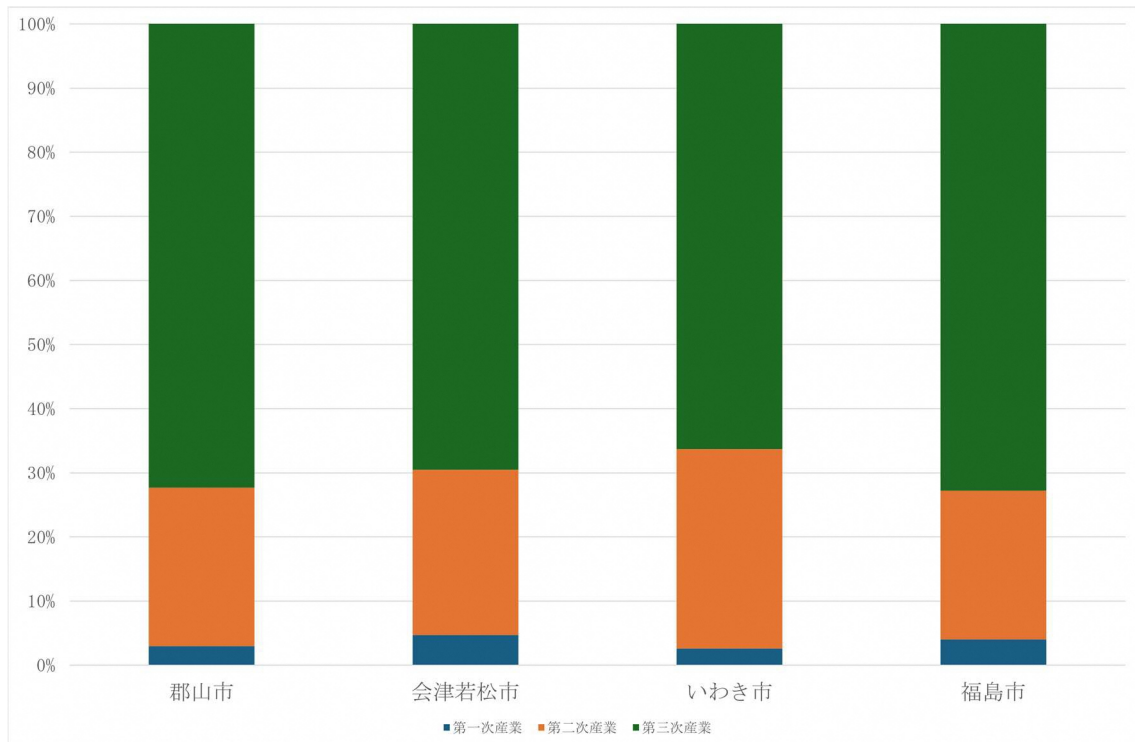
(出典：会津若松市「令和2年国勢調査 就業状態等基本集計結果」より筆者作成)

【図表2 ICT政策実施前後の転入数】

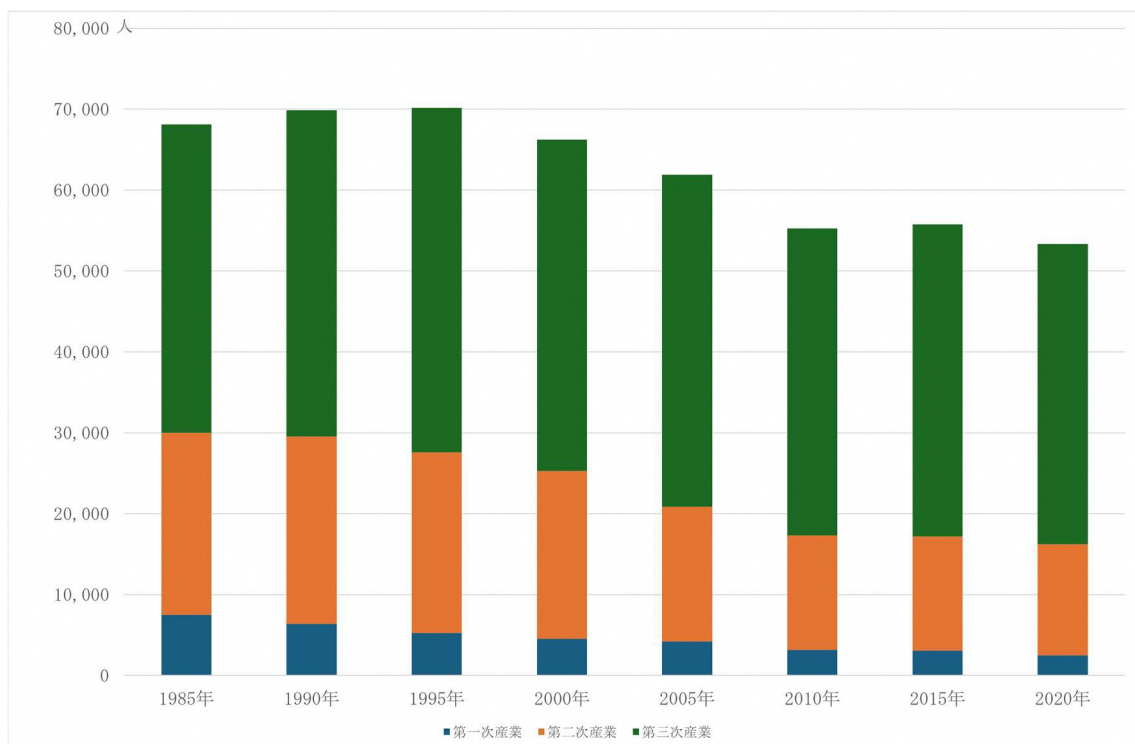


(出典：福島県「福島県現住人口調査年表」より筆者作成)

【図表3 2020年 福島県の一部の市の産業別人口割合】



【図表4 会津若松市の産業別人口の推移】



(出典:総務省 「令和2年度国勢調査」より筆者作成)

第2章 課題解決案の提案

1. 解決案の提案

私たちは課題の解決にあたり、現在会津若松市内に住む若者が住み続けたい、もしくは一度市外に出た人がいずれ帰りたいと思えるような街づくりを目指す方向性で考えた。そのうえで子供の医療費助成制度の充実をはじめとした制度面は、他の地域と比較してかなり優れており、今回は主にハード面での政策を検討した。そこで私たちは今回の課題解決に向けて「会津若松駅前コミュニケーション施設日新館」の設置を提案する。施設の内容は若者が気軽に利用できるレンタルスペースや自習室、若者を中心に需要の高いカフェなどの飲食店、バスや電車を利用する方々が待機・休憩できるようなものを検討している。さらにはイベント開催などができるスペースなど、世代を問わず多くの市民の方々が関わり合えるようなスペースの設置も考えている。

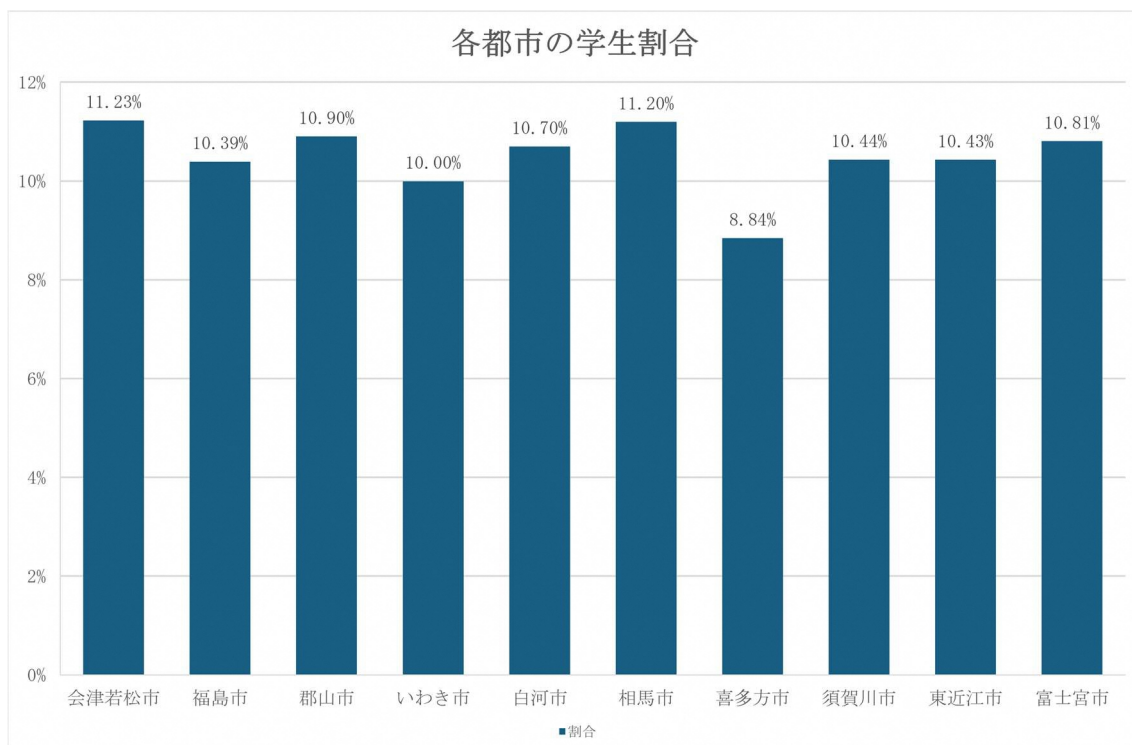
2. 解決案の根拠

2-1. 主なターゲット層及び設置場所の選定について

下記の（図表 5）は福島県の一部の市、面積と人口が会津若松市と近似している静岡県富士宮市と滋賀県東近江市の人口と学生人口、学生割合を表したものである。これを見ると会津若松市は福島県内のほかの市町村や富士宮市、東近江市と比べて1%ほど学生割合が多いこと、そして市内に会津大学を有することなどから会津若松駅とその周辺は多くの学生の利用が見込める。下記の（図表 6）は会津若松駅の利用者数と定期割合を表した表だ。これを見ると会津若松駅の定期利用割合は毎年 50%以上を占めている。そのため会津若松駅や会津若松駅周辺の駅を日常的に利用する方々の施設利用が見込める。また最寄り駅でなくとも定期券の範囲内なら気軽に降車し施設に足を運ぶ人もいるだろう。そして主要駅とその周辺はいわば街の玄関口であるため、周辺整備が観光客集客につながる可能性も視野に入れている。市内をめぐる会津バスの始点・終点でもあるため、市民・観光客両者にとって利便性や観光利用の面から需要があると考えた。主なターゲット層は学生を中心とした若者であるが、外部からのイメージアップ、そこからくる様々なメリットを考えている。また、参考施設の一つに 2018 年に開業した宮崎県延岡市の延岡駅前施設エンクロスがある。年間乗降者数が約 2,000 人、延岡市の人口が約 12 万人と会津若松市・会津若松駅と近似しているため参考にした。この延岡駅前施設エンクロスの 2023 年の年間来訪者数は 100 万人を超している⁴。同規模である会津若松市・会津若松駅前に施設を設置しても同様の効果が期待できると考えた。

⁴延岡市「延岡駅前複合施設エンクロスモニタリング結果」
(<https://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/uploaded/attachment/19724.pdf>)

【図表 5 2023 年度 各都市の学生割合】



(出典：文部科学省 「令和 5 年度学校基本統計」 より筆者作成)

【図表 6 会津若松駅の利用者・定期利用者・割合】

年度 (年)	定期外 (人)	定期 (人)	合計 (人)	定期割合 (%)
2023	1,011	1,152	2,164	53.23%
2022	834	1,129	1,964	57.48%
2021	624	1,149	1,774	64.77%
2020	546	1,201	1,747	68.75%
2019	1,124	1,309	2,434	53.78%
2018	1,210	1,370	2,581	53.08%
2017	1,221	1,448	2,669	54.25%
2016	1,240	1,480	2,721	54.39%
2015	1,301	1,479	2,781	53.18%
2014	1,261	1,427	2,688	53.09%

(出典：JR 東日本 「各駅の乗車人数」)

また会津若松市が計画している「会津若松駅前都市基盤整備事業」も主な理由である。会津若松駅前都市基盤整備事業とは、事業概要によると「会津らしさを醸し出し安全で利便性の高い駅前空間と人と情報が交流するプラットフォームの創出を基本コンセプトと

し、周辺道路や駅前ロータリーなどの安全性や利便性の課題解決、会津エリアの観光の玄関口としてのシンボル性や賑わい、魅力の向上を目的に、会津若松駅前の交通結節点機能の充実や道路交通の円滑化など会津若松市の玄関口として求められる都市機能を高め、都市内及び地域間の人・物・情報がつながり、地域に親しまれる“まちの拠点”を形成するために、駅前広場及びその周辺の都市基盤の整備を進める」ものである⁵。また、事業の基本構想の中には5つの方針がある。「1. 安全で円滑な駅周辺の交通環境を整備します。2. 安全で利便性の高い駅前広場へと再生します。3. 官民連携により、持続的な管理運営が可能な空間体制を作り出します。4. 駅前地区とまちなかの活性化に貢献します。5. 会津の玄関口にふさわしい景観形成を図ります⁶。」本政策はこの5つある基本方針のうち2~5の4つを満たしていると考ええる。本政策で提案する会津若松駅前コミュニケーション施設日新館は、この“まちの拠点”の一角を担う存在になってほしい。

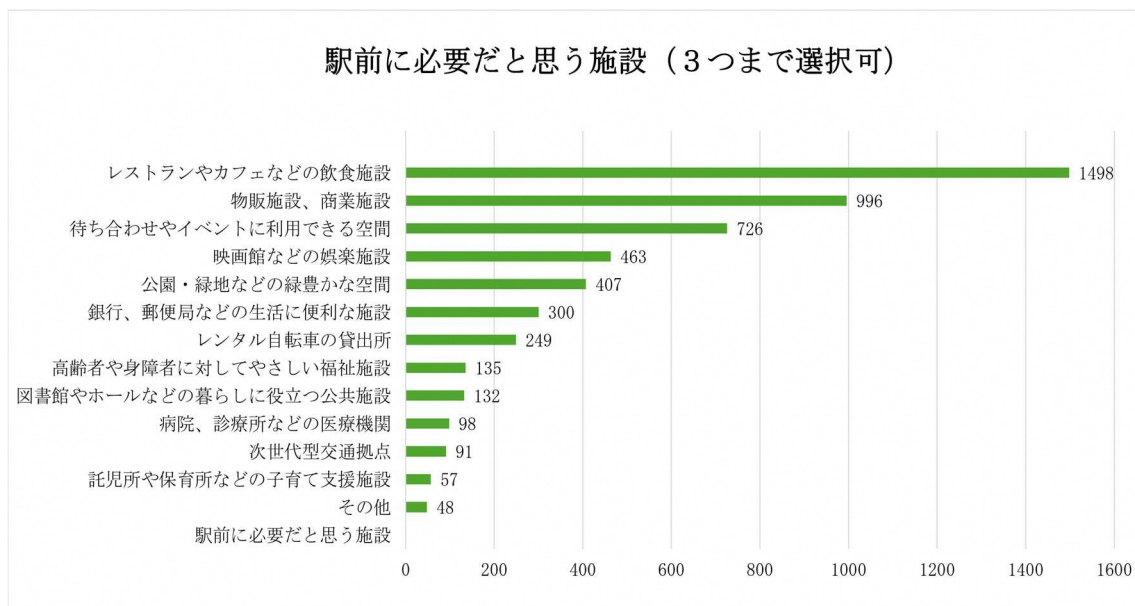
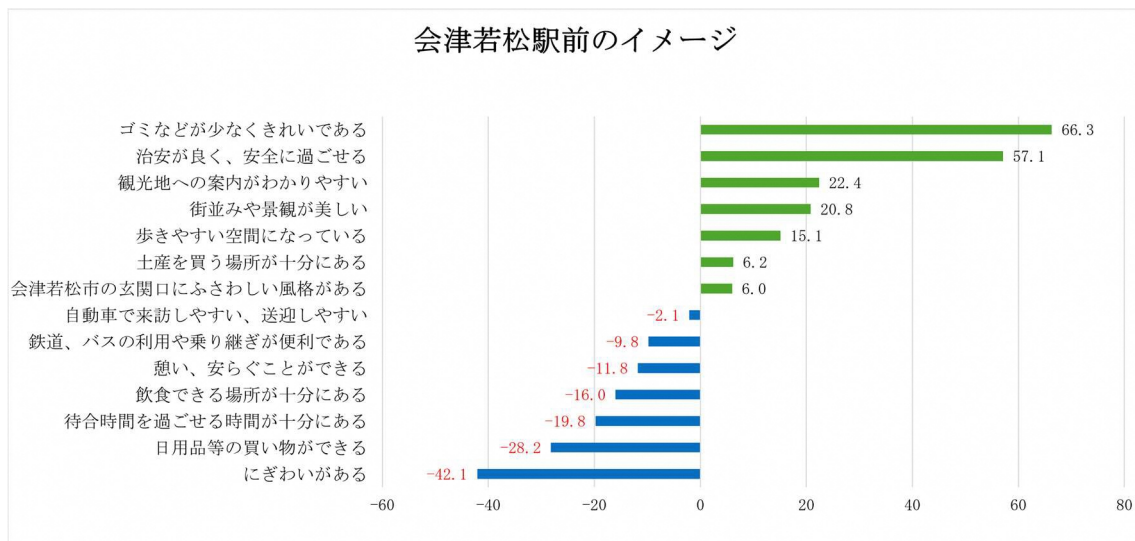
2-2. 施設の内容について

下記の図は、2023 年度に会津若松市まちづくり整備課が会津若松駅周辺に滞在したことのある約 2,000 人を対象とした会津若松駅前のイメージなどを聞いたアンケートの結果を表したものである。(図表 7) アンケート結果をみると治安の良さや綺麗、といったプラスの意見が出た一方で、賑わいの有無や待ち時間を過ごすスペースの有無、憩いの場の有無についての結果は大きくマイナスとなっていた。さらに同アンケートで駅前に必要だと思う施設の上に飲食店や待ち合わせ・イベントスペースが挙がっていた。これらの意見を取り入れつつも主なターゲットを若者とした案を考えた結果、駅前にコミュニケーション施設を設置することに思い至った。主な内容としては、学生がふらっと立ち寄って勉強や楽器、談笑や会議などが行える貸しスペースの設置、若者の滞在と公共交通機関の待ち時間の消費を狙うための話題性のあるカフェの設置であったり、外部からさまざまなコンテンツのイベントを誘致するためのイベントスペースの設置であったりを通じて、世代間交流や地域の活性化を狙っていく。

⁵ 会津若松市まちづくり整備課 「会津若松駅前都市基盤整備事業 事業概要」より

⁶ 会津若松市まちづくり整備課 「会津若松駅前都市基盤整備事業 基本構想」より

【図表 7 会津若松駅前に関するアンケート結果】



（出典：会津若松市まちづくり整備課 「会津若松駅前都市基盤整備事業について」）

2-3. 各施設の理由について

（1）カフェ等飲食店

先述した駅周辺に滞在歴のある方々へのアンケートの結果や、昨今のカフェ人気を鑑みて、参考施設の宮崎県延岡市の延岡駅前施設エンクロスの施設利用目的の 4 割がカフェ利用目的だったため、採用した。また待ち時間の活用、メニュー次第で会津産の食材を利用することで地産地消や観光客の飲食、滞在などが狙える。また雇用の創出にもつながる。

(2) 学生向けのレンタルスペースや自習室

メインターゲットを学生中心とした若者にするにあたって、需要のあるものを選択した。こちら、類似事例で学習目的利用が3割ほどあったため採用した。市内の生涯学習センターの一つである会津若松市立会津図書館は、駅から徒歩20分の場所にあることから気軽に利用できる層に限られる。スペース数的に多くの学生の利用が難しいと考えられるので、駅前で気軽に学習などを行えるスペースを確保するために採用した。また楽器が利用できる部屋、軽い運動ができる部屋、発表などに利用できるスクリーンを用意した部屋などを用意し、幅広いニーズに対応することも考えた。

(3) イベントスペース

街や自治体主催の地域イベントの開催拠点の一つとして利用できるほか、外部からのイベント誘致などで駅周辺の娯楽施設の一つとしても活躍できる見込み。また、個人・団体での出店やマーケットイベント開催など、営利目的での利用も検討している。

(4) 商業施設

書店などは参考事例でも需要が高いことが分かった。書店で書籍を購入した後カフェで読書をしながら飲食をするなど施設滞在の流れの一つとしても機能する。そのほかに地域の特産品・名産品の販売所を設置することで、地域内だけでなく地域外からの利用・滞在がより見込める。

(5) キッズスペース

小さな子供がいる家族にも利用してほしいという考えから。また参考施設の延岡駅前施設エンクロスではキッズスペース利用者が有効回答数のうち17%あるため、設置する意義があると考ええる。

(6) 観光案内所

会津エリア観光の拠点・玄関口としての機能は駅前施設には必要不可欠なため採用した。バスのルート案内や主な観光スポット、会津エリアならではの食事处やお店の紹介をして商店街エリアなどへ人の流れを促すことで、地域の既存施設・商店と良い関係を築くという重要な役割もある。

2-4. 参考施設

会津若松駅前にコミュニケーション施設を設置するという案を検討するうえで参考にした施設がある。東京都武蔵野市の複合施設 QuOLa (クオラ)、福井県敦賀市のオルパーク、そして宮崎県延岡市のエンクロスである。

（Ⅰ）QuOLa（クオラ）

東京都武蔵野市武蔵境駅前にある複合施設で、中にはクリニックやカフェ、行政施設やイベントスペースなどがある。実際に施設を訪れ利用状況などを確認したところ、カフェは多くの人が足を運んでいたほか、屋上にあるイベントスペースの一つでは打ち上げが行われていた。また施設の方に話を伺うと、屋上のイベントスペースは特に夏場は予約でいっぱいだという。施設がある場所やアクセスの利便性にそのような施設が駅前にあるということは、人が多く集まることのできる機会の提供にもつながり、また地域内交流・世代間交流促進のきっかけを作り、会津若松市への愛着の増加や協力意識の成長も狙うことができると考える。

（Ⅱ）オルパーク

福井県敦賀市敦賀駅に隣接、2014年4月に開業した敦賀駅交流施設オルパークはコンビニエンスストアや食事処、広々とした休憩スペースなどがあり、公共交通の乗り継ぎ時の待ち時間消費や待ち合わせに利用できるテナントが豊富だ。そして今回私たちが提案したいものに近いレンタルスペースもある。会議や発表といった用途はもちろん、ワークショップやギャラリー展示、イベント出店といった営利目的の活動もできるため、個人・団体と様々な形態の利用が見込める。過去には市内外の特産品や食品、ハンドメイド作品などを多数の店舗が出店して販売するイベントも行われている。会津若松駅前にこのようなコミュニケーション施設を設置することで、会津若松駅前イメージアンケートで振るわなかった項目を挽回し、駅前利便性の向上からくる若者の定着、駅前から広がる活気、そして地域の魅力発信にも一役買うことが見込めるだろう。

（Ⅲ）宮崎県延岡市延岡駅前施設エンクロス

2018年4月にオープンした、宮崎県延岡市延岡駅の駅舎と一体化した施設。待合スペースや情報発信スペース、中高生などが学習のために利用することもできる市民活動スペースや地域特産品売り場があり幅広い世代が利用可能な施設となっている。延岡市の人口は約12万人、延岡駅の年間乗降客数は約2000人と会津若松市・駅と近似しているところがある。そんな延岡駅前施設エンクロスの2023年の年間来訪者数は1,032,877人となっており、似たような立地特性を持つ会津若松駅前施設でも同程度の集客効果が期待できるのではないだろうか。また施設利用者へのアンケートでは、有効回答数421件のうち平均滞在時間が1時間以上と答えた人の割合は6割以上となっている。また施設利用の目的として学習利用が28.5%、カフェ利用が40.6%となっており（図表8）、このアンケート結果からも学習施設・カフェ等飲食店の需要の高さがうかがえる⁷。

【図表8 延岡駅前施設エンクロス 利用目的アンケート】

⁷ 「延岡駅前複合施設エンクロス利用者アンケート結果報告書」より引用。施設滞在時間は単一回答、施設利用目的は複数回答。

問 8	エンクロスの主な利用目的は何ですか。		
	複数回答	n	%
1	市民活動やイベントへ参加する	65	15.4
2	新聞・図書資料を読む	89	21.1
3	電車・バスや迎えの待ち時間を過ごす	83	19.7
4	キッズガーデンやキッズスペース等で子どもと遊ぶ	70	16.6
5	仕事や打合せをする	35	8.3
6	学習をする	120	28.5
7	友人・知人と会う	65	15.4
8	家族・友人に付き添う	21	5.0
9	地域特産品（お土産）コーナーを利用する	20	4.8
10	書店を利用する	85	20.2
11	カフェ（スターバックスコーヒー）を利用する	171	40.6
12	気晴らしや時間つぶし	96	22.8
13	贈り物の購入	15	3.6
14	その他	13	3.1
	無回答	29	6.9
	全体	421	100.0

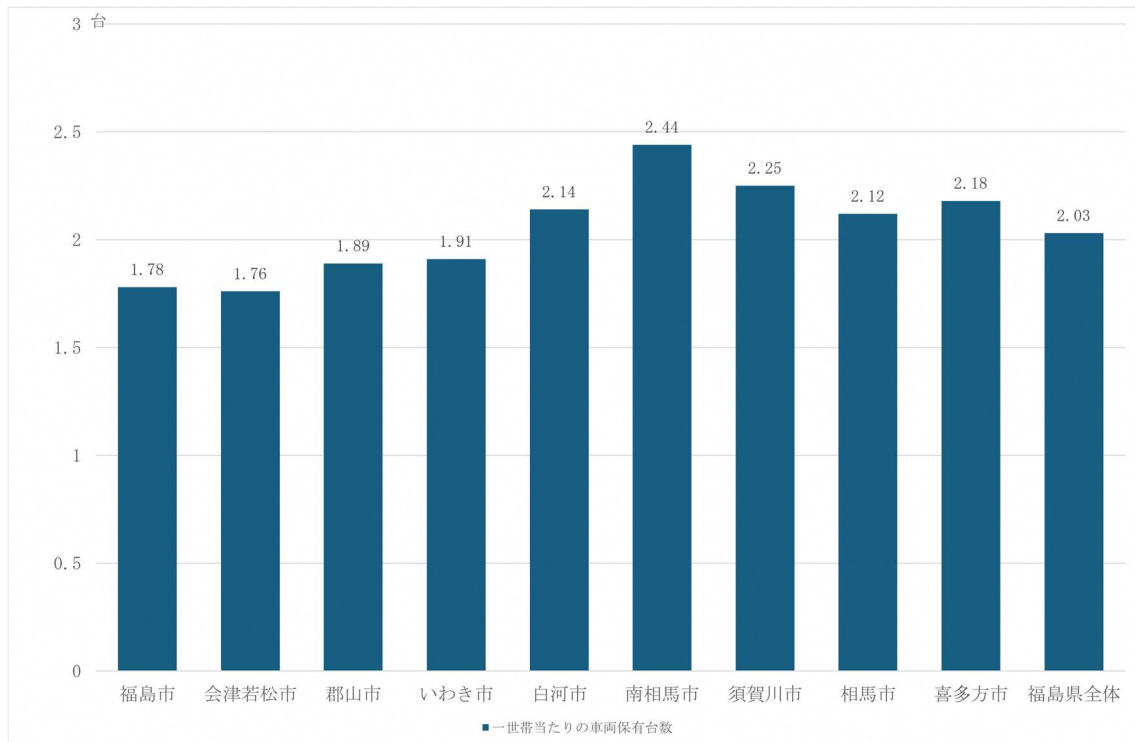
（出典：カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 「延岡駅前複合施設エンクロス
利用者アンケート結果報告書」）

第3章 提案した政策と「若者の定着」の結びつき

第2章の1でも述べたように、若者視点で会津若松市を見た時、子供の医療費助成など制度面はとても優れていると言える。実際に東洋経済新報社が2022年に発表した「2022年の市町村別住みよさランキング」では県内1位・全国66位と結果にも表れている⁸。そこで私たちはインフラなど生活利便性に関連するものに目を向けた。下の図は国土交通省が発表した福島県内の市町村別世帯当たりの車両保有台数を示した図である。（図表9）この資料によると2023年3月31日時点で、会津若松市は一世帯当たりの車両保有台数が福島県全域の平均を下回り、主要な市の中では一世帯当たりの車両保有台数が最も少ないことがわかった。一世帯の車両保有台数が少ないということは、車両保有台数が多いほかの地域と比較して公共交通機関を利用する機会が多いと考えられる。その公共交通機関の一つの集合場所となりうる会津若松駅前周辺は閑散としており、乗り継ぎの待ち時間や来訪時の選択肢が少ない。これは会津若松駅周辺に滞在歴のある方々へのアンケートの結果にも表れている。公共交通をはじめとしたインフラ整備や周辺施設の拡充を通して、アンケートのマイナス意見となった要素を減らしていき、ソフト面・ハード面双方で住みよい街づくりをし、若者にとっても暮らしやすい街を形成することで、若者の定着に繋がるのではないかと。

⁸ 会津若松市市長室井照平 2022年度市長講話「会津若松市の現状と未来」より

【図表 9 2023 年 3 月 31 日時点での福島県内市町村別一世帯当たりの車両保有状況】

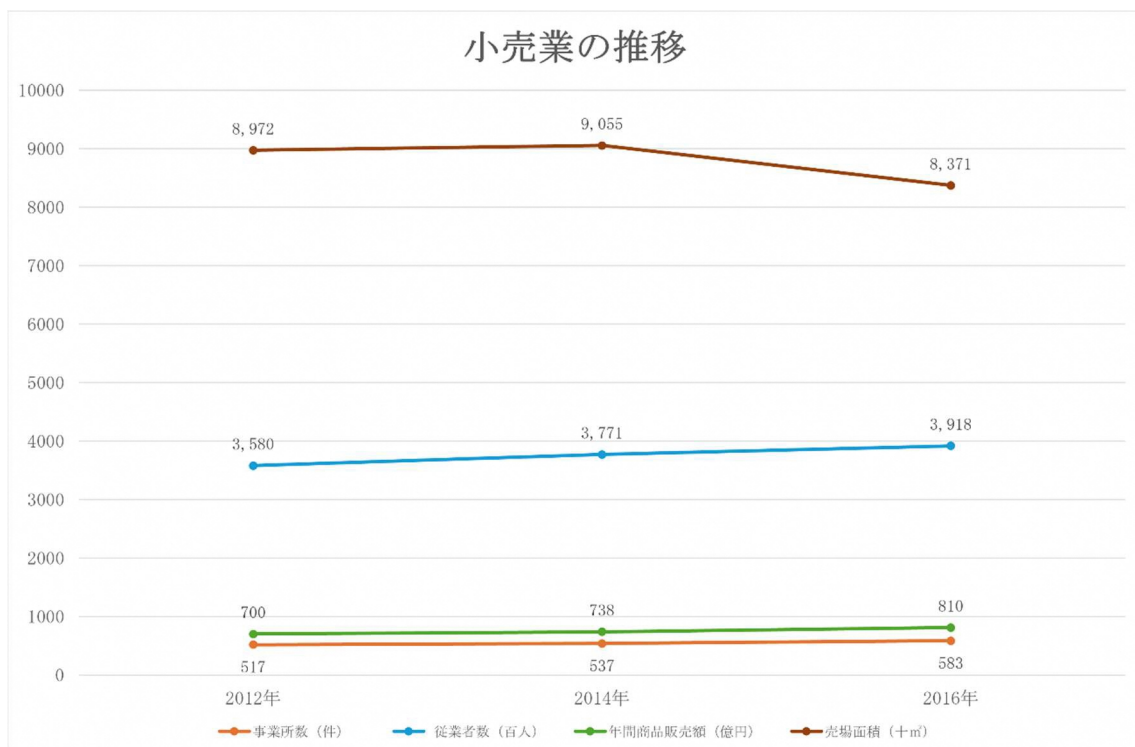
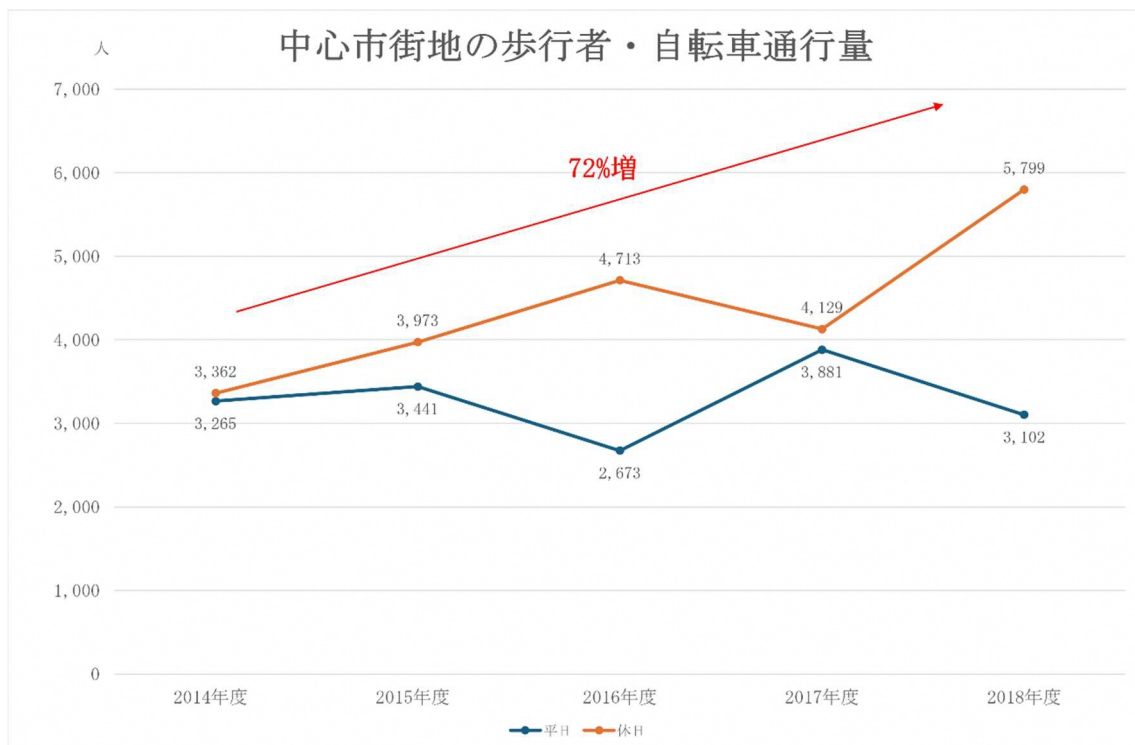


(出典：国土交通省 「福島県内市町村別 世帯当たり保有車両数」 より筆者作成)

第 4 章 近隣施設の反発について

駅前にこのような施設を設置するとなると、顧客の流出や人の流れの変化という側面で近隣施設の関係者からの反発が予想される。下の図は今回参考にした施設のうちの一つ、敦賀駅交流施設オルパーク開業後の周辺市街地の通行量や小売業の推移を表したものである。(図表 10) オルパーク開業後の 2014 年以降、駅利用者数や観光客数の増加、それに伴う中心市街地の歩行者・自転車通行量の増加がみられた。また、敦賀市内小売業では従業員数や年間商品販売額が増加するなど、駅前施設の設置が周辺施設に好影響を及ぼすことがわかった。観光資源が豊富な会津若松市には駅前施設開業後も多くの観光客の来訪が見込める。会津若松駅前コミュニケーション施設**日新館**の開業後も、会津若松駅と観光施設の導線上にある既存の周辺施設には良い影響を与えようとする。

【図表 10 参考施設「敦賀駅交流施設オルパーク」設置による周辺市街地への影響】



(出典：敦賀市 「北陸新幹線開業に向けた敦賀市行動計画」)

第5章 施設名「日新館」の由来と込めた思い

本論文にて提案する会津若松駅前コミュニケーション施設の名称「**日新館**」は、會津藩校の日新館に由来している。會津藩校日新館創設の背景には、江戸時代後期、太平の世となりそれまでの風習が変化し武士の気も緩み始め、道德の退廃が顕著となってきたこと、また天明の大飢饉を挟んで会津藩内でも様々な問題が発生したことなどがあつた。こうした諸問題を解決すべく、会津藩5代藩主松平容頌の時、家老の田中玄宰は藩政の改革をするよう進言し、その中心に「教育の振興」を挙げ、このことが日新館創設の背景となった⁹。これは今回私たちが会津若松駅前コミュニケーション施設を提案するに至った背景と一致している。また会津若松駅周辺の教育の拠点の一つとなり会津若松市の活性化や若年人口の流出といった諸問題解決の一翼を担う施設になってほしいという願いを込めて「**日新館**」とした。ただし會津藩校日新館と全く同じ漢字を使った名称はネット上での検索阻害などの問題があることから、会津若松駅前コミュニケーション施設「**日新館**」と名付けた。

おわりに

本論文では、「若者に選ばれる街の実現に向けて」というテーマに対して、駅前の利便性向上やコミュニティの形成、会津若松の魅力発信の拠点となる「会津若松駅前コミュニケーション施設**日新館**」の設置について提案してきた。これは駅前の利便性が向上することで、豊かな観光資源を有する会津若松市の観光の拠点に、会津バスをはじめとする地域の公共交通の拠点に、そして様々な世代の人々が集まるコミュニティの拠点となり、駅前から活性化の波が市全体に波及すると考えたからである。会津若松市の内外から活気が集まり、また公共交通の利便性が向上することで、活気だけでなく市民生活全体の利便性の向上に寄与し、長く住みたいと思われるような街になり、その結果として若者を含め転出数の減少や転入数の増加、産業全体の活性化へとつながると考える。

そしてゆくゆくは若者に選ばれ定着してもらうだけでなく、すべての方々が最後の時まで住み続けたい。そう思われるような街になるのではないだろうか。

〈参考文献〉

⁹ 會津藩校日新館－会津藩・白虎隊の学び舎＞日新館について
(<https://nisshinkan.jp/about>)

- ・矢作弘（2009）「暮らしのインフラとしての地方都市中心市街地の再生：Government と Community-governance が連携することの重要性：福島県会津若松市の事例研究」『季節経済研究』31（4）1-14 頁
- ・水野謙吾, 加我宏之, 武田重昭, 松尾薫（2023）「駅前広場における交流機能を支える空間特性の解明」『日本都市計画学会関西支部研究発表会講演概要集』21（0）, 105-108 頁
- ・千葉県白井市市民環境経済部産業振興課企業誘致推進室（2023）「駅前広場の活用事例：産業振興・企業誘致の視点から挑む官民連携手法による駅周辺地域活性化の取組み」『新都市』77（4）, 61-65 頁
- ・河崎駿也（2023）「地方都市における駅前再開発が中心市街地に与える影響」『日本地理学会発表要旨集』2023s（103）, 114 頁
- ・松本健一郎, 横田隆司, 飯田匡, 伊丹康二（2018）「5112 滞在空間として計画された駅前広場における滞在行動に関する研究 姫路駅北駅前広場と天理駅前広場を対象として」『建築計画』（2018）, 245-246 頁
- ・西村亮彦, 船久保敏（2018）「市民参加を取り入れた駅前広場整備における公共性の醸成プロセスに関する考察」『土木学会論文集 D3』（土木計画学）74（5）, 605-611 頁
- ・齊藤充弘, 佐藤凌真（2022）「中高生のまちに対する意識と日常生活行動にみる地方都市のまちづくり課題について」『都市計画報告集』21（2）, 197-203 頁
- ・原田弘子, 戸田常一（2012）「都市の姿と中心市街地活性化の取組みに関する研究」『地域学研究』2012, Vol. 42, No. 3, 777-789 頁
- ・松本大地（2024）『街づくり×商業 リアルメソッドを極める方法』学芸出版社

〈参考資料及び統計調査〉

- ・文部科学省 「令和 5 年度学校基本調査」
- ・令和 5 年度福島県学校基本統計
- ・令和 5 年度宮城県学校基本統計
- ・令和 5 年度神奈川県学校基本統計
- ・令和 5 年度東京都学校基本統計
- ・令和 5 年度愛知県学校基本統計
- ・令和 5 年度大阪府学校基本統計
- ・令和 5 年度福岡県学校基本統計
- ・令和 5 年度滋賀県学校基本統計
- ・令和 5 年度静岡県学校基本統計
- ・統計局「令和 2 年度国勢調査」
- ・福島市「福島市統計書」（令和 4 年版）
- ・会津若松市「令和 2 年国勢調査就業状態等基本集計結果－会津若松市の結果概要」
- ・いわき市統計書（令和 4 年版）

- ・いわき市統計書（平成 24 年版）
- ・郡山市統計書 2023（令和 5 年版）
- ・国土交通省 「福島県内市町村別 世帯当たり保有車両数」
- ・JR 東日本 「各駅の乗車人数」
- ・会津若松市まちづくり整備課 「令和 5 年度 会津若松駅前都市基盤整備事業について」
（https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2023052300032/file_contents/ekimaesetumeisiryoku.pdf）
- ・カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 「2023 年度 延岡駅前複合施設エンクロス 利用者アンケート結果報告書」
（<https://encross-nobeoka.jp/news/media-download/7958/ba0a7cb90c44e3bc/>）
- ・会津若松商工会議所 「2022 年 街なか再開発構想についての提言書～魅力ある会津若松市の創造に向けて～」（https://www.aizu-cci.or.jp/aizu-cci/cci-img/a-cci-inC1/02-topics/t2022/20221001_02.pdf）
- ・会津若松市 「2023 年 会津若松地域公共交通計画アクションプラン～利便増進実施計」
（https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2022040100012/file_contents/kotsu_actionplan.pdf）

〈参考 HP〉

- ・会津バス 路線図
（<https://www.aizubus.com/rosen/jikokuhyou>） 2024 年 10 月 14 日最終閲覧
- ・敦賀駅前施設オルパーク（<https://orupark.jp/>） 2024 年 10 月 9 日最終閲覧
- ・会津藩校日新館 HP（<https://nisshinkan.jp/about>） 2024 年 10 月 10 日最終閲覧
- ・会津オリンパス会社情報サイト「事業紹介 世界に誇る技術力」
（<https://www.aizu.olympus.co.jp/business/technologies/>） 2024 年 10 月 17 日最終閲覧